

豊平河畔 だより

北海道社会保険病院



「クリスマスコンサート」
平成24年12月20日(木)開催
北海道社会保険病院内グリーンモールにて



病院理念

患者さんを中心とした質の高い医療を提供し、地域から信頼される病院を目指します。

基本方針

- 1.患者さんの権利を尊重し、人間愛を基調とした医療に努めます。
- 2.安全で安心できる医療に努めます。
- 3.説明と同意を基本とする医療に努めます。
- 4.地域の医療・福祉施設との連携を推進します。
- 5.地域の健康増進を目指し、保健予防活動を推進します。

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



病院長 岸 不盡彌

昨年末は総選挙により自民党が大勝し、自民・公明両党による新政権は衆議院の3分の2を超える議席を有することになりました。これは3年3ヶ月前に民主党政権が約束したマニフェストとはかけ離れた方向に政策を進めようとした結果を、国民が評価したことになります。しかし、自民党は比例で見ればわずか27%の支持で過半数を取り、小選挙区制の問題点を改めて浮き彫りにしました。わが国が抱える課題は、少子高齢化をはじめ、非正規雇用の増大と格差の拡大、製造業の海外へのシフトなど国を構成する姿の変容への対応といえます。新政権には経済は勿論のこと、医療・社会保障、産業のあり方、TPP問題、原発可否を軸とするエネルギー政策等々真剣な取り組みを少しでも期待したいと思います。

さて、当院は昨年11月より開放型病院として承認され、登録された地域の先生方の利用が始まっております。開放型病床利用の手続きおよび登録については、地域連携相談室で対応しておりますので何時でもお問い合わせ頂きたいと存じます。また、今年は地域医療支援病院への手続きも進める予定ですので、平素よりご利用いただいているおられる診療所、病院の先生方にはいっそこの協力をお願い申し上げます。

社会保険病院は、現在「独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構RFO」に所有されていますが、昨年の議員立法により26年4月1日からは「独立行政法人地域医療機能推進機構」に改組移行することになっています。新機構では厚生年金病院と船員保険病院も統合され、全国で50数病院が公設民営から公設公営のグループになります。これまで社会保険病院の存続のために、地域住民の方や札幌市医師会、札幌市議会の決議など多くの方々のご支援を頂きましたことに改めて感謝申し上げます。昨年4月にRFOでは、新機構準備に向け尾身茂自治医科大学地域医療学センター長が新理事長に就任され、新機構の理念として「地域医療、地域包括ケア連携の『要』として、超高齢社会における地域住民の多様なニーズに応え、人々の生活を支える。」を掲げることとし、地域への一層の貢献を明らかにしています。今年はその具体的施策への準備を全病院で進めることになっています。

当院では、これまで同様「患者さんを中心とした質の高い医療を提供し、地域から信頼される病院を目指し」、安全で安心できる医療を提供するよう努め、同時に「北海道社会保険介護老人保健施設サンビュー中の島」との連携で地域包括ケアの推進にも努めていく所存であります。

新しい年を迎え、地域連携相談室を中心に、患者・利用者のために地域の先生方と協力して医療を担っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。



Dr.からの ワンポイントアドバイス

メニエール病四つの常識

耳鼻科主任部長 金谷 健史



メニエール病というのは、名前はきわめて有名ですが、病気そのものに関して色々誤解されている方も多いかと思われます。

今回は、「メニエール病四つの常識」と題して、メニエール病を簡潔にまとめてみましたので紹介したいと思います。

1.メニエール病はフランス人医師 プロスペーメニエールの論文(1861年)を起源とする。

1861年、日本で言えば江戸時代です。当時ヨーロッパでは、めまいというのは脳の鬱血から起こると信じられていた様ですが、メニエール先生は「めまいは、内耳からも起こる」という内容の論文を書き、その後メニエール先生が発表した「内耳から起こるめまい」を、メニエール病と呼ぼうということになりました。

2.メニエール病は比較的珍しい病気である。

メニエール病は比較的珍しい病気です。人口10万人に対して10–50人という統計が一般的です。そうなると札幌市のメニエール病患者さんは、200人から1000人となります。もっと多い印象もありますが、メニエール病診断基準を適切に用いると、このくらいの数字が正しいと思います。「メニエール病と言われている人は非常に多いが、本物のメニエール病患者さんはあまり多くない」という印象を私も持っています。

3.メニエール病は比較的若い人の病気である。

メニエール病はお年寄りの病気と思われている人も多いと思いますが、メニエール病の発病は20歳から40歳代という調査結果が一般的です。

4.メニエール病のめまい(めまい発作)は、多くの場合2–3年間で、寛解または消退する。

ここが一番重要なポイントです。メニエール病は不治の病と信じている方もいると思いますが、そんなことはありません。多くの場合、強いめまい発作は数年で消失または改善します。まれに治療に抵抗する難治例に遭遇しますが、もちろん不治の病ではありません。

メニエール病は診断や治療が難しく、難病と思われている方も多いと思いますが、そんなことはありません。メニエール病でお悩みの方は、お気軽に受診され、何でも相談して下さい。

column
07

糖尿病とともに生活する患者さん・ご家族を支援するためにできること

糖尿病看護認定看護師 神崎 博子



糖尿病・内分泌内科外来のスタッフ(神崎:右から2人目)

～増加し続ける糖尿病～

世界における糖尿病の現状をみると、2012年世界の糖尿病人口は、約3億6600万人、日本においては、世界第6位、約1067万人という調査結果が発表されています。特に中国、インドなどアジア地域の増加率が高くなっています。糖尿病の増加は、世界中が抱える大きな社会問題となっています。日本では、40歳以上の3人に1人は糖尿病または糖尿病予備軍であると言われ、治療だけでなく、どのような食事や生活習慣が糖尿病予防に効果があるのかという研究も盛んに行われています。糖尿病の治療は、食事療法・運動療法・薬物療法があり、また生活習慣の改善そのものが治療の基本と考えられています。このように生活習慣が治療と密に関わっているために、糖尿病患者さんは、日常生活のなかで様々な療養行動(治療を継続していくための工夫)をしていくことが必要になります。しかし、ライフスタイルや食生活が多様化しており、生活習慣を改善することに困難を感じている方が多いのが現状です。

～糖尿病看護認定看護師の役割と糖尿病とともに生きる患者さん・ご家族への支援～

糖尿病看護認定看護師は、糖尿病を抱えながらも患者さん一人一人が、その人らしい生活を過ごすことができるよう支援することを目的としてケアしています。

私は現在、外来に所属し、主に外来通院している患者さん・ご家族の療養相談・フットケア外来を担当しています。外来診療ではゆっくり患者さんと話す時間を確保するのは難しい状況ですが、その中でも患者さんには、「自宅で困っていることはないですか?」と声をかけるように心がけています。療養相談では、インスリン治療や自己血糖測定をしている患者さんの自宅での生活の様子をうかがい、治療、生活、血糖値との関係と一緒に考えるようになっています。自宅での生活をうかがうと、患者さん自身も気付かないうちに、治療を継続していくための工夫をされており、患者さんから学ばせていただくこともあります。患者さんが治療を継続することに負担を感じないように、日常生活状況をよく聞きながら、患者さんと一緒に考え、一番良い方法を見つけていく関わりを大切にし、患者さんがもっと気軽に相談できる環境を整備していきたいと思います。

フットケア外来は他2名の外来看護師と担当し、他院通院中の患者さんも来院されています。糖尿病は合併症が進行てくると、足のしびれや感覚異常などの神経障害を起こし、潰瘍や壊疽など足病変を起こす危険性もあります。フットケア外来では、患者さんと一緒に足を観察し、

足の状態・全身状態・セルフケア状況・生活状況の視点からアセスメントを行い、足浴・爪や胼胝(たこ)・鶏眼(うおのめ)・角質などのケアを提供しています。フットケアを行っていると、多くの方が何らかの足のトラブルを抱えていることがわかりました。潰瘍や壊疽になってしまうと、痛みを生じ、歩行困難になり日常生活に支障をきたすだけでなく、潰瘍や壊疽を繰り返し、感染症で命を落とすことも少なくありません。世界中のどこかで糖尿病が原因で30秒に1本足が切断されているデータもあります。糖尿病におけるフットケアは、潰瘍や壊疽などの足病変から、患者さんの足を守ることを目的とし、患者さんが自分の足に関心を持ちながらセルフケアできるように支援していきたいと思っています。

糖尿病を持ちながら生活する患者さんやご家族を支援するためには、病院内の医療チームだけでは不可能で地域との連携は欠かせません。

今後も地域の医療機関、施設、訪問看護ステーションなどと連携して、糖尿病とともに生活する患者さんとご家族を支援していきたいと思っています。



フットケア外来

健康教室のご案内

当病院では、健康への正しい知識を深める機会として、毎月2週にわたって健康教室を開催しております。

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士等が分かりやすくお話しします。
どなたでも無料でご参加いただけます。



場所 外来棟1階ホスピタルモール
(エスカレーター裏側)

時間 11:30～12:00

予約 予約はいりません。
どなたでも無料でご参加いただけます

※開催日など詳しくは、ホームページやチラシをご覧ください。

外来の待合場所が会場です

整形外科

中央
処置室

エスカレーター

会計窓口

再来
受付機

正面玄関

会場はこちら

 健康教室から看護師のお話です

ピロリ菌ってなあに? ～胃・十二指腸との関係～

外来 青木 愛弓

ピロリ菌(正式名はヘリコバクターピロリといいます。)は、1987年にオーストラリアで胃の中に生息していることが確認され、その後様々な研究からピロリ菌が胃潰瘍などの病気には深く関わっていることが明らかにされてきました。

日本では年齢とともにこの細菌を持っている人が増えています。全国民の約半数が感染しているとされ、現在は60才以上の人のうち70%以上が感染していると考えられています。

ピロリ菌の感染には衛生環境が関係していると考えられていて、上下水道が十分普及していなかった世代の人が高い感染率となっています。衛生状態が改善された現在では、若い世代の感染率は急速に低下しています。口から口への経口感染が主な経路と考えられており、多くは5歳ころまでの幼少期に感染します。例えば、噛み碎いたものを子供に口移しで与えるといった行為で感染させる可能性があります。

ピロリ菌がいると胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃炎の原因になり、更に胃がんの発生に深く関わっていることがわかっています。しかし、感染していてもほとんどの人は自覚症状がありません。感染しても必ず胃潰瘍や十二指腸潰瘍を発生するわけではなく、感染している人の約5%の人が病気を発症するに留まります。けれども胃潰瘍患者さんの約80%以上がピロリ菌の感染者であるとの報告もあります。

参加してくださる患者さんやご家族とお話していると「家族にピロリ菌に感染した人がいるが自分は検査を受けなくて大丈夫か」「前に検査を受けたがピロリ菌はいなかったがまたすぐに受けたほうがいいのか」「孫に今度会うが大丈夫か」などの声が聞かれます。誰もが今すぐに検査を受ける必要があるかというと、そうではありません。今まで検査の受けたことのない方は、このような時に要注意です。「胃炎や胃潰瘍・十二指腸潰瘍をおこしやすい」「胃の不快感が半年以上続いている」「薬を飲んでも胃の症状が一時的にしか回復しない」「年齢が60歳以上の方」「衛生環境の悪いところに住んでいたことがある」「家族にピロリ菌の感染者がいる」などです。特に胃炎や胃潰瘍・十二指腸潰瘍を起こしやすい人は、要注意です。

ピロリ菌の感染を予防するために、子供に食べ物を口移ししない、手洗い・うがいをすることが大切です。ご自身の生活を振り返ってできることから始めてみていただけたら良いと思います。

薬剤部(Pharmacy)

薬剤部副部長 羽田 好範

病院の外来を受診されて、お薬が処方された時、当院では院外処方を行なっていますので外来の患者さんは院外の調剤薬局に処方箋を持っていってお薬を調剤してもらいます。

そして、その薬剤師から薬の飲み方や使用上の注意の説明がされます。

では、入院の患者さんはどうでしょうか。

入院された患者さんのお薬は、私達薬剤部が担当させて頂きます。

薬剤部は、現在、薬剤師12名、助手1名の体制で下記のような業務を院内において行なっています。

調 剤

薬剤師は医師の処方に基づいて、入院の患者さんのお薬を中心に、調剤を行ないます。医師の処方に疑義(通常の使用量より多すぎたり、又は少なすぎたり、使い方が通常とは違う等)があれば、確認して、必要によっては処方変更の依頼を行ないます。また、注射剤で抗がん剤など特殊なお薬は、薬剤部で混ぜて直ぐに使用できる状態に調整します。

病 棟

現在6つの病棟に専任の薬剤師が一人配置され、その病棟の患者さんに直接面談し、お薬の説明や副作用のチェック、入院時に持参したお薬の確認等を行なう他、得られた情報とそこから得られる薬物療法の問題点を検討し、適正使用のための情報とともに医師をはじめとした医療チームに還元・提案を行なっています。

他にも病棟内に管理されている医薬品の指導や助言を行なったり、お薬の質問に回答したりもしています。

製 剤

病院で取り扱うお薬のほとんどは、製薬会社によって製造されたものですが、患者さんの症状や病態によっては、市販のお薬では対処できない場合があります。このようなとき、医師は世界中の論文や学会発表などを調べて、効果がありそうなお薬の製造を薬剤部に依頼します。製剤室では調製方法や添加物を考え、もっとも有効で安全になるようにお薬を作ります。市販されていないお薬の製造のほか、調剤の予備行為として錠剤の粉碎や軟膏の混合なども行います。市販されていないお薬で、どうしてもそのお薬が必要な場合には、病院の委員会で許可を受けて、その患者さんに使えるようにお薬を調整して、提供しています。

医薬品情報

お薬についての新しい情報の収集や医療スタッフへの医薬品情報の提供を行なっています。薬品情報の提供を通じて、良質かつ適正な薬物療法に寄与することを目的としています。

他にも、健康教室でのお薬についての説明や、禁煙外来でお薬の使い方や注意の説明を行なったり、病院内で医薬品が安全に使用できるようにお薬の管理を行なっています。



調剤業務



病棟薬剤業務

症例検討会のお知らせ

北海道社会保険病院では、地域の先生方との研修・交流の場として症例検討を中心とした勉強会を開催しています。

札幌南部呼吸器懇話会

第33回

日 時: 平成25年2月21日(木) 18:30 ~
場 所: 北海道社会保険病院 3階講堂

リバーサイド消化器懇話会

第33回

日 時: 平成25年3月12日(火) 18:20 ~
場 所: 北海道社会保険病院 3階講堂

詳細は地域連携相談室までお問い合わせください。

症例検討会を実施しました

第1回

周産期センター勉強会

日 時: 平成24年11月14日(水) 18:30 ~
場 所: 北海道社会保険病院 3階講堂
参加者: 院外25名 院内32名
講 演: 「当院における妊娠糖尿病(GDM)の管理について」



第2回

退院支援・調整研修会

日 時: 平成24年11月28日(水) 18:00 ~
場 所: 北海道社会保険病院 3階講堂
参加者: 院外19名 院内66名
講 演: 「地域関係機関との事例検討会」
地域の訪問看護師及び他院の退院調整
看護師、SWを招き研修会を開催しました。



第2回

周産期センター勉強会

日 時: 平成24年12月12日(水) 18:30 ~
場 所: 北海道社会保険病院 3階講堂
参加者: 院外11名 院内27名
講 演: 「新生児の呼吸障害について」



災害救急指定日

平成25年2月28日(木)・3月10日(日)・3月25日(月)

二次救急指定日

循環器・呼吸器系

平成25年2月8日(金)・2月23日(土)・3月5日(火)



消化器系

平成25年2月5日(火)・3月15日(金)

小児系

平成25年2月10日(日)・2月15日(金)
3月2日(土)・3月12日(火)・3月20日(水)

変更になる場合がございます。当日の新聞等で確認をお願いいたします。